

設定マニュアル

RadiForce® RX560 RX560-AR

カラー液晶モニター

重要

ご使用前には必ずこの設定マニュアルおよび取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。

- ・モニターの設定 / 接続については取扱説明書を参照してください。
- ・設定マニュアルを含む最新の製品情報は、当社のWebサイトから確認できます。

<http://www.eizo.co.jp>



製品の仕様は販売地域により異なります。お買い求めの地域に合った言語の設定マニュアルをご確認ください。

- 1.本書の著作権はEIZO株式会社に帰属します。本書の一部あるいは全部をEIZO株式会社からの事前の許諾を得ることなく転載することは固くお断りします。
- 2.本書の内容について、将来予告なしに変更することがあります。
- 3.本書の内容については、万全を期して作成しましたが、万一誤り、記載もれなどお気づきの点がありましたら、ご連絡ください。
- 4.本機の使用を理由とする損害、逸失利益などの請求につきましては、上記にかかわらず、いかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。


目次

目次	3	5-3. 表示サイズを切り替える	20
第1章 基本操作と機能一覧	4	5-4. DisplayPortのバージョンを設定する	20
1-1. スイッチと操作ガイドの使い方	4	5-5. DVIのリフレッシュレートを設定する	21
1-2. 設定メニューの基本操作	5	5-6. 画像の表示方向を設定する	21
1-3. 機能一覧	7	5-7. 電源スイッチのランプの明るさを調整する	22
第2章 画面を調整する	8	5-8. 使用しない表示モードをスキップする	22
2-1. 対応解像度	8	5-9. パワーセーブ時のDisplayPort通信の有効/無効を設定する	22
2-2. 入力信号を設定する	8	5-10. 操作スイッチをロックする	23
2-3. 表示モード (CAL Switchモード) を選択する	9	5-11. DDC通信の入力信号を選択する	23
2-4. 明るさ/カラーを調整する	10	5-12. 階調表示警告の表示/非表示を設定する	24
● 各モードの調整項目	10	5-13. 寿命予測データを取得する	24
● ブライトネス (明るさ) を調整する	10	5-14. 設定メニューの表示を回転する	24
● Hybrid Gamma PXLを有効/無効にする	11	5-15. EIZOロゴの表示/非表示を設定する	25
● コントラストを調整する	11	5-16. モニター情報を表示する	25
● 色温度を調整する	11	5-17. 初期設定に戻す	26
● ガンマを調整する	12	● カラー調整値をリセットする	26
● 色合いを調整する	12	● すべての設定内容をリセットする	26
● 色の濃さを調整する	12	第6章 こんなときは	27
● ゲインを調整する	13	6-1. 画面が表示されない場合	27
2-5. 画像鮮鋭度補正機能 (Sharpness Recovery) の有効/無効を設定する	13	6-2. 画面に関する症状	28
第3章 モニターの品質管理をする	14	6-3. その他の症状	29
3-1. SelfCalibration機能を使う	14	● エラーコード表	30
● SelfCalibrationを実行する	14	第7章 ご参考に	31
● SelfCalibrationの結果を確認する	15	7-1. アーム取り付け方法	31
3-2. 階調チェック機能を使う	15	7-2. USBハブ機能の使用方法	32
● 階調チェックを実行する	15	7-3. 主な初期設定値	33
● 階調チェックの結果を確認する	16	付録	34
3-3. 警告表示、QC履歴表示の表示/非表示を設定する	16	商標	34
第4章 モニターを長く使用する	17	ライセンス	34
4-1. パワーセーブの設定をする	17		
4-2. 離席時のパワーセーブの設定をする	18		
第5章 モニターの設定をする	19		
5-1. 表示言語を設定する	19		
5-2. 入力信号を自動検出する	19		




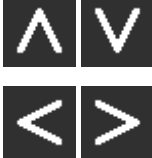


第1章 基本操作と機能一覧

1-1. スイッチと操作ガイドの使い方


1. 操作ガイドの表示

いずれかのスイッチに触れます（を除く）。
画面に操作ガイドが表示されます。




表示	機能
	電源のオン/オフを切り替えます。
	設定メニューを表示します。設定メニューでは、モニターの詳細な設定をおこないます。
	表示モードを切り替えます。切り替え方法の詳細は、「 2-3. 表示モード (CAL Switch モード) を選択する 」(P.9)を参照してください。
	項目を選択します。
	選択した内容を確定します。
	選択をキャンセルします。

2. 調整 / 設定

- 設定したいアイコンのスイッチに触れます。
メニューが表示されます。
- 各スイッチで設定します。必要に応じて  を選択して確定します。

3. 終了


 を選択してメニューを終了します。

参考

- 数秒間スイッチを操作しないと、メニューおよび操作ガイドが自動的に終了します。




1-2. 設定メニューの基本操作

1. 設定メニューの表示

1. 操作ガイドから  を選択します。
設定メニューが表示されます。



参考

- 「管理者設定」の項目を調整/設定する場合は、次の手順に従って設定メニューを表示します。
 1.  を選択して、モニターの電源を切ります。
 2. 一番左側のスイッチ () に触れながら  に2秒以上触れてモニターの電源を入れます。
「管理者設定」が表示されます。
-

2. 調整 / 設定

1. **▲▼** で、調整 / 設定したいメニューを選択し、**✓** を選択します。



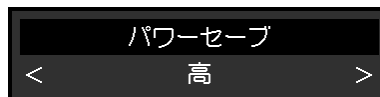
詳細メニューが表示されます。

2. **▲▼** で、調整 / 設定したい項目を選択し、**✓** を選択します。



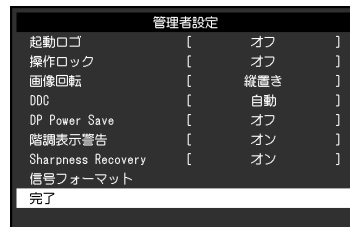
調整 / 設定メニューが表示されます。

3. **<>** で、調整 / 設定し、**✓** を選択して確定します。



参考

- ・「管理者設定」の項目は、「完了」を選択することで設定が確定します。



3. 終了

- ✕** を数回選択し、設定メニューを終了します。

参考

- ・「管理者設定」は、「完了」を選択すると終了します。

1-3. 機能一覧

設定メニューの項目一覧表です。

メインメニュー	項目	参照先
CAL Switch Mode	モード	「2-4. 明るさ / カラーを調整する」 (P.10) 参考 ・「CAL Switch Mode」で調整 / 設定できる機能はモードにより異なります（「各モードの調整項目」 (P.10) 参照）。
	ブライトネス	
	Hybrid Gamma PXL	
	コントラスト	
	色温度	
	ガンマ	
	色合い	
	色の濃さ	
	ゲイン	
	リセット	
RadiCS SelfQC	SelfCalibration	「3-1. SelfCalibration機能を使う」 (P.14)
	階調チェック	「3-2. 階調チェック機能を使う」 (P.15)
	LEA	「5-13. 寿命予測データを取得する」 (P.24)
	設定	「3-3. 警告表示、QC履歴表示の表示 / 非表示を設定する」 (P.16)
信号設定	画面拡大	「5-3. 表示サイズを切り替える」 (P.20)
本体設定	入力	「2-2. 入力信号を設定する」 (P.8)
	入力自動検出	「5-2. 入力信号を自動検出する」 (P.19)
	パワーセーブ	「4-1. パワーセーブの設定をする」 (P.17)
	ランプ輝度	「5-7. 電源スイッチのランプの明るさを調整する」 (P.22)
	人感センサー	「4-2. 離席時のパワーセーブの設定をする」 (P.18)
	モードスキップ	「5-8. 使用しない表示モードをスキップする」 (P.22)
	オールリセット	「5-17. 初期設定に戻す」 (P.26)
言語選択		「5-1. 表示言語を設定する」 (P.19)
インフォメーション		「5-16. モニター情報を表示する」 (P.25)
管理者設定	起動ロゴ	「5-15. EIZOロゴの表示 / 非表示を設定する」 (P.25)
	操作ロック	「5-10. 操作スイッチをロックする」 (P.23)
	画像回転	「5-6. 画像の表示方向を設定する」 (P.21)
	DDC	「5-11. DDC通信の入力信号を選択する」 (P.23)
	DP Power Save	「5-9. パワーセーブ時のDisplayPort通信の有効 / 無効を設定する」 (P.22)
	階調表示警告	「5-12. 階調表示警告の表示 / 非表示を設定する」 (P.24)
	Sharpness Recovery	「2-5. 画像鮮鋭度補正機能 (Sharpness Recovery) の有効 / 無効を設定する」 (P.13)
	信号フォーマット	「5-4. DisplayPortのバージョンを設定する」 (P.20) 、 「5-5. DVIのリフレッシュレートを設定する」 (P.21)

第2章 画面を調整する

2-1. 対応解像度

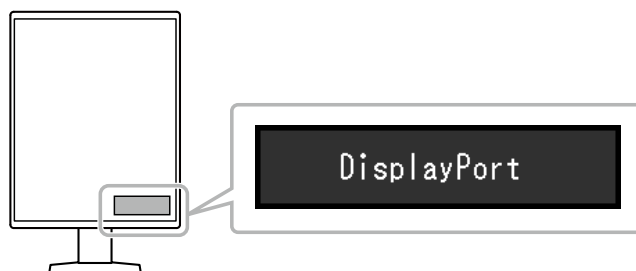
この製品の対応解像度については、取扱説明書「対応解像度」を参照してください。コンピュータ側での解像度の設定方法は、コンピュータの取扱説明書を参照してください。

2-2. 入力信号を設定する

画面に表示する入力信号を選択することができます。

設定方法

1. 設定メニューの「本体設定」を選択し、を選択します。
2. 「入力」を選択し、を選択します。
3. 「DVI」または「DisplayPort」を選択し、を選択します。
設定が完了すると、入力ポート名が表示されます。



注意点

- 主電源を切り、再度電源を入れた場合は、設定内容に関係なく信号が自動で検出されます。
- 「入力自動検出」が「オン」の場合は、設定した信号のコンピュータが省電力モードに入ったり、電源が切れたりすると、自動的に他の信号を表示します。詳細は、「5-2. 入力信号を自動検出する」(P.19)を参照してください。

2-3. 表示モード（CAL Switchモード）を選択する

モニターの使用に応じた表示モードに切り替えることができます。

モードの種類

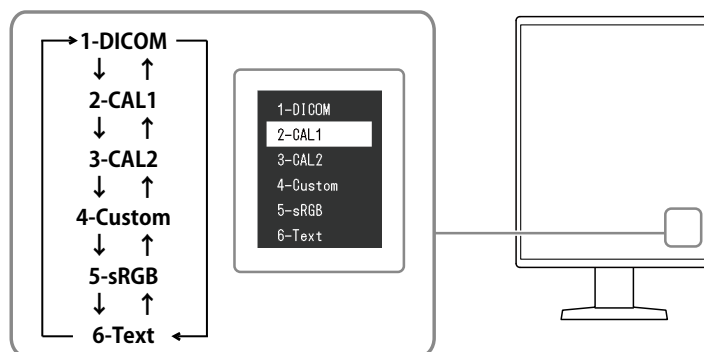
○：キャリブレーション可能

モード	目的	
1-DICOM	DICOM Part 14 に準拠している階調特性で表示することができます。	○
2-CAL1	キャリブレーションソフトウェアによる調整状態で表示します。	○
3-CAL2		○
4-Custom	好みに応じた設定をおこなう際に選択します。	—
5-sRGB	sRGB対応の周辺機器と色を合わせる場合に適しています。	—
6-Text	文書作成や表計算などの文字表示に適しています。	—

設定方法

1. いずれかのスイッチに触れます（**⏻**を除く）。
2. 操作ガイドから **☰** を選択します。
モードメニューが右下に表示されます。

例：



3. **☰** を選択するたびにモードが順に切り替わり表示されます。
モードメニュー表示中は、**▲** または **▼** を選択してモードを切り替えることもできます。

参考

- ・設定メニューとモードメニューを同時に表示させることはできません。

2-4. 明るさ / カラーを調整する

モードごとに明るさやカラーを調整し、保存することができます。

注意点

- ・製品内部の電気部品の動作が安定するのに、約15分かかりますので、モニターの調整は電源を入れたあと、またはパワーセーブモードから復帰して15分以上経過してからおこなってください。
- ・モニターにはそれぞれ個体差があるため、複数台を並べると同じ画像でも異なる色に見える場合があります。複数台の色を合わせるときは、視覚的に判断しながら微調整してください。

参考

- ・「%」、「K」表示は調整の目安としてご利用ください。

● 各モードの調整項目

モードの種類により、調整できる機能が異なります。（調整 / 設定できない機能は選択できません。）

○：調整可 —：調整不可

機能名	CAL Switch Mode					
	1-DICOM	2-CAL1	3-CAL2	4-Custom	5-sRGB	6-Text
ブライトネス	○	○	○	○	○	○
Hybrid Gamma PXL	○	○	○	—	—	—
コントラスト	—	—	—	○	○	○
色温度	—	—	—	○	○	○
ガンマ	—	—	—	○	○	○
色合い	—	—	—	○	○	○
色の濃さ	—	—	—	○	○	○
ゲイン	—	—	—	○	○	○
リセット	○	○	○	○	○	○

● ブライトネス（明るさ）を調整する

バックライト（液晶パネル背面の光源）の明るさを変化させて、画面の明るさを調整します。

設定範囲

0～100%

設定方法

1. 設定メニューの「CAL Switch Mode」を選択し、を選択します。
2. 「ブライトネス」を選択し、を選択します。
3. またはで設定します。
4. 設定が完了したらを選択します。

● Hybrid Gamma PXLを有効 / 無効にする

Hybrid Gamma PXL機能を有効にすることで、同一画面内のモノクロとカラーをピクセルごとに自動的に判別し、カラー画像に対してカラー画像表示用のガンマ値で表示することができます。

設定値

オン、オフ

設定方法

1. 設定メニューの「CAL Switch Mode」を選択し、を選択します。
2. 「Hybrid Gamma PXL」を選択し、を選択します。
3. 「オン」または「オフ」を選択し、を選択します。

● コントラストを調整する

ビデオ信号のレベルを変化させて、画面の明るさを調整します。

設定範囲

0~100%

設定方法

1. 設定メニューの「CAL Switch Mode」を選択し、を選択します。
2. 「コントラスト」を選択し、を選択します。
3. またはで設定します。
4. 設定が完了したらを選択します。

参考

- ・ コントラストを100%にした場合に、すべての色階調が表示されます。
- ・ 画面の明るさは、初めに、階調特性を損なうことのないブライトネスで調整することをお勧めします。
- ・ コントラスト調整は次のような場合に使用してください。
 - ブライトネスが0%でも画面が明るいと感じたとき。

● 色温度を調整する

色温度を調整します。

通常「白」または「黒」の色合いを数値的に表現するとき用いられるもので、K：Kelvin（ケルビン）という単位で表します。

炎の温度と同様に、画面は色温度が低いと赤っぽく表示され、高いと青っぽく表示されます。また、色温度の設定値ごとにゲインのプリセット値が設定されています。

設定範囲

Native、6000K~15000K（100K単位）、sRGB

設定方法

1. 設定メニューの「CAL Switch Mode」を選択し、を選択します。
2. 「色温度」を選択し、を選択します。
3. またはで設定します。
4. 設定が完了したらを選択します。

参考

- ・ 「ゲイン」でさらに詳細な調整が可能です（「ゲインを調整する」（P.13）参照）。
- ・ 「Native」でパネル本来の色（ゲインの値はRGB各100%）になります。
- ・ ゲインの値を変更すると、色温度は「User」になります。

● ガンマを調整する

ガンマ値を調整します。モニターは入力される信号によって明るさが変化しますが、この変化率は入力信号と単純な比例関係にありません。そのため入力信号と明るさの関係が一定の関係になるよう制御をおこなうことをガンマ補正といいます。

設定範囲

1.6～2.7、sRGB

設定方法

1. 設定メニューの「CAL Switch Mode」を選択し、を選択します。
2. 「ガンマ」を選択し、を選択します。
3. またはで設定します。
4. 設定が完了したらを選択します。

注意点

- Hybrid Gamma PXLがオンの場合、設定内容に関係なくカラー画像を表示するピクセルはカラー画像表示用のガンマ値に固定されます。

● 色合いを調整する

色合いを調整します。

設定範囲

-100～100

設定方法

1. 設定メニューの「CAL Switch Mode」を選択し、を選択します。
2. 「色合い」を選択し、を選択します。
3. またはで設定します。
4. 設定が完了したらを選択します。

注意点

- この機能を使用することによって、すべての色階調を表示できないことがあります。

● 色の濃さを調整する

色の濃さを調整します。

設定範囲

-100～100

設定方法

1. 設定メニューの「CAL Switch Mode」を選択し、を選択します。
2. 「色の濃さ」を選択し、を選択します。
3. またはで設定します。
4. 設定が完了したらを選択します。

注意点

- この機能を使用することによって、すべての色階調を表示できないことがあります。

参考

- 最小値 (-100) で白黒の画面となります。

● ゲインを調整する

色を構成する赤、緑、青のそれぞれの明るさをゲインと呼びます。これを調整することで、「白」の色調を変更することができます。

設定範囲

0~100%

設定方法

1. 設定メニューの「CAL Switch Mode」を選択し、を選択します。
2. 「ゲイン」を選択し、を選択します。
3. 「Red」、「Green」、「Blue」の中から調整する色を選択し、を選択します。
4. またはで設定します。
5. 設定が完了したらを選択します。

注意点

- ・この機能を使用することによって、すべての色階調を表示できないことがあります。

参考

- ・色温度の値に応じてゲインの値が変わります。
 - ・ゲインの値を変更すると、色温度は「User」になります。
-

2-5. 画像鮮鋭度補正機能（Sharpness Recovery）の有効 / 無効を設定する

Sharpness Recoveryを有効にすることで、モニター間の鮮鋭度のばらつきを補正し、元画像をより忠実に再現することができます。

設定方法

1. を選択して、モニターの電源を切ります。
2. 一番左側のスイッチ（)に触れながらに2秒以上触れてモニターの電源を入れます。
3. 「管理者設定」で「Sharpness Recovery」を選択し、を選択します。
4. 「オン」または「オフ」を選択し、を選択します。
5. 「完了」を選択し、を選択します。

注意点

- ・設定の切り替え後は、医療規格 / ガイドラインに基づいて目視検査を実施してください。
-

第3章 モニターの品質管理をする

この製品は、Integrated Front Sensorを内蔵しており、キャリブレーションや階調チェックをモニター単独で実行することができます。

参考

- 付属のRadiCS LEのスケジュール機能を使用することで、キャリブレーションを定期的におこなうことができます。設定方法の詳細は、RadiCS LEの取扱説明書(CD-ROM内)を参照してください。
- RadiCSを使用すると、キャリブレーションのスケジュール設定に加え、階調チェックのスケジュール設定を行うことができます。設定方法の詳細は、RadiCSの取扱説明書を参照してください。
- 医療規格 / ガイドラインに対応した高度な品質管理をおこないたい場合には、別売のモニター品質管理ソフトウェアキット「RadiCS UX2」を使用してください。
- Integrated Front Sensorの測定結果とEIZO製外付けセンサー（UX1 SensorまたはUX2 Sensor）の測定結果を同等にするためには、RadiCS / RadiCS LEを使用してIntegrated Front Sensorと外付けセンサーの相関取り(コレレーション)を実行してください。定期的なコレレーションにより、Integrated Front Sensorは外付けセンサーと同等の測定精度を維持することができます。詳細は、RadiCS / RadiCS LE取扱説明書を参照してください。

3-1. SelfCalibration機能を使う

SelfCalibrationを実行し、最新の結果を閲覧できます。

● SelfCalibrationを実行する

設定方法

1. 設定メニューの「RadiCS SelfQC」を選択し、を選択します。
2. 「RadiCS SelfQC」で「SelfCalibration」を選択し、を選択します。
3. 「実行」を選択し、を選択します。

SelfCalibrationが実行されます。

注意点

- SelfCalibration実行中にコンピュータの電源が切られる、または入力信号が切り替わった場合、実行がキャンセルされます。
- SelfCalibration実行後は、実際の使用環境と同じ室温や照度で階調チェックを実行してください。

参考

- RadiCS / RadiCS LEを使用することで、次の項目を設定することができます。設定方法の詳細は、RadiCS / RadiCS LEの取扱説明書を参照してください。
 - キャリブレーションの調整目標
 - SelfCalibrationのスケジュール
 - RadiCS / RadiCS LEでスケジュールを設定した場合は、詳細メニューに次回の実行スケジュールを表示されます。



- キャリブレーションの調整目標値は、設定メニューの「CAL Switchモード」で対象のモードを選択することで確認できます。

● SelfCalibrationの結果を確認する

注意点

- ・「QC履歴表示」を「オン」に設定した場合に確認できます（「3-3. 警告表示、QC履歴表示の表示 / 非表示を設定する」（P.16）参照）。

設定方法

1. 設定メニューの「RadiCS SelfQC」を選択し、を選択します。
2. 「SelfCalibration」を選択し、を選択します。
3. 「結果閲覧」を選択し、を選択します。
4. 「DICOM」 / 「CAL1」 / 「CAL2」のいずれかを選択し、を選択します。
SelfCalibrationの結果（最大エラー率、前回実行日、エラーコードなど）が表示されます。

3-2. 階調チェック機能を使う

階調チェックを実行し、最新の結果を閲覧できます。また、RadiCSでスケジュールを設定した場合には、次回の実行スケジュールを表示します。

● 階調チェックを実行する

注意点

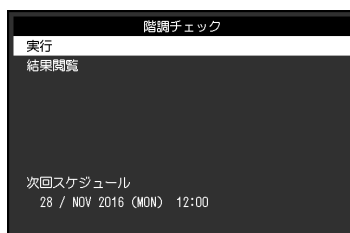
- ・実際の使用環境と同じ温度や照度で階調チェックを実行してください。

設定方法

1. 設定メニューの「RadiCS SelfQC」を選択し、を選択します。
2. 「階調チェック」を選択し、を選択します。
3. 「実行」を選択し、を選択します。
階調チェックが実行されます。

注意点

- ・階調チェックの判定値は、RadiCSから設定することができます。詳細は、RadiCSの取扱説明書を参照してください。
- ・RadiCSを使用することで、階調チェックのスケジュールを設定することができます。設定方法の詳細は、RadiCSの取扱説明書を参照してください。RadiCSでスケジュールを設定した場合、詳細メニューに次回の実行スケジュールを表示されます。



● 階調チェックの結果を確認する

注意点

- ・「QC履歴表示」を「オン」に設定した場合に確認できます。

設定方法

1. 設定メニューの「RadiCS SelfQC」を選択し、を選択します。
2. 「階調チェック」を選択し、を選択します。
3. 「結果閲覧」を選択し、を選択します。
4. 「DICOM」 / 「CAL1」 / 「CAL2」のいずれかを選択し、を選択します。
過去5回までの階調チェックの結果（合格 / 不合格 / 中止 / エラー）が表示されます。

3-3. 警告表示、QC履歴表示の表示 / 非表示を設定する

階調チェックの結果がNGだった場合の警告表示や、SelfCalibrationや階調チェックなどの実行結果（QC履歴表示）の表示、非表示を設定することができます。

設定方法

1. 設定メニューの「RadiCS SelfQC」を選択し、を選択します。
2. 「設定」を選択し、を選択します。
3. 「警告表示」または「QC履歴表示」を選択します。
4. 「オン」または「オフ」を選択し、を選択します。

第4章 モニターを長く使用する

コンピュータの状態や人の離席状態に応じて、モニターをパワーセーブモードにすることができます。モニター不使用时にパワーセーブモードとなるよう設定することで、モニターのバックライトの寿命を延長することができます。

4-1. パワーセーブの設定をする


コンピュータの状態と連動してモニターをパワーセーブモードにする、しないの設定をすることができます。

設定方法

1. 設定メニューの「本体設定」を選択し、を選択します。
2. 「パワーセーブ」を選択し、を選択します。
3. 「高」 / 「低」 / 「オフ」のいずれかを選択し、を選択します。

設定	機能
高	バックライトを消します。最も省電力効果が高くなります。
低	バックライト最小点灯状態にします。パワーセーブから復帰した後、動作が安定するまでの時間を短くすることができます。
オフ	パワーセーブモードに移行しません。コンピュータの状態に関わらずバックライトが点灯しているため、バックライトの寿命を短くする可能性があります。

注意点

- モニターを使用しない時は、主電源を切るか、電源プラグを抜くことで電力が消費されなくなります。
- モニターがパワーセーブモードの場合、またはモニターの電源スイッチ () で電源を切っても、USBアップストリームポートおよびUSBダウンストリームポートに接続されている機器が動作します。そのためモニターの消費電力は、パワーセーブモードであっても接続される機器によって変化します。

参考

- コンピュータから信号が入力されなくなったことを検出すると、パワーセーブモードへの移行をお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されてから5秒後にパワーセーブモードに入ります。
- モニターの状態は電源スイッチのランプの状態で確認できます。

コンピュータの状態	モニターの状態	電源ランプの状態
オン	通常動作モード	緑
省電力モード	パワーセーブモード	橙
省電力モード	通常動作モード (入力信号なし)	緑

4-2. 離席時のパワーセーブの設定をする

人感センサーの設定をすることで、人がモニターから離れるとモニターは自動的にパワーセーブモードに移行し、画面を非表示にすることができます。再度人が近づくと、パワーセーブモードから復帰して画面を表示します。モニターの使用環境や使用者の動作量に応じて、感度、パワーセーブモードに移行するまでの時間を設定できます。

注意

- ・「RadiCS SelfQC」実行時には使用できません。
- ・「パワーセーブ」で「オフ」を選択している場合には、使用できません。

参考

- ・パワーセーブモードへの移行時には、移行をお知らせするメッセージが表示されます。

設定方法

1. 設定メニューの「本体設定」を選択し、を選択します。
2. 「人感センサー」を選択し、を選択します。
3. 「オン」または「オフ」を選択し、を選択します。
4. 「オン」を選択した場合、詳細を設定します。

設定	設定範囲	詳細
検知時間	5、30sec 1、3、5、10、15、 30、45、60min	人がモニターから離れてから、「離席中」というメッセージが表示されるまでの時間を設定します。メッセージが表示されると、約20秒後にモニターがパワーセーブモードに移行します。
検知感度	レベル5 レベル4 レベル3 レベル2 レベル1	設定値を大きくすると、人の小さな動きも敏感に検知し、パワーセーブモードに移行しにくくなります。逆に、設定値を小さくすると、人の大きな動きだけを検知し、パワーセーブモードに移行しやすくなります。人感センサーは、モニター正面のセンサーが熱の移動を検知することで機能します。そのため、服装や気温により感度が変化します。意図せずパワーセーブモードに移行したり、パワーセーブモードから復帰する場合には、設定値を変更してみてください。
リセット	-	人感センサーに関するすべての設定内容を初期設定に戻します。

参考

- ・気温が高いときは感度が低くなるため検知感度を大きく、気温が低いときは感度が高くなるため検知感度を小さく設定するとより快適に使用いただけます。

第5章 モニターの設定をする

5-1. 表示言語を設定する

設定メニューやメッセージの表示言語を選択できます。

選択できる言語

英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、スウェーデン語、日本語、中国語（簡体）、中国語（繁体）

設定方法

1. 設定メニューの「言語選択」を選択し、を選択します。
2. 言語を選択し、を選択します。

5-2. 入力信号を自動検出する

信号が入力されているコネクタを自動で判別し、画面に表示することができます。

設定方法

1. 設定メニューの「本体設定」を選択し、を選択します。
2. 「本体設定」で「入力自動検出」を選択し、を選択します。
3. 「オン」または「オフ」を選択し、を選択します。

設定	機能
オン	信号が入力されているコネクタを自動で判別し、画面に表示します。 複数のコンピュータを接続している場合に、画面に表示しているコンピュータが省電力モードに入ったり電源が切れたりすると、自動的に他の信号を表示します。
オフ	信号が入力されているかどうかにかかわらず、選択している入力信号が表示されます。 入力信号を切り替える場合は、「2-2. 入力信号を設定する」(P.8)を参照してください。

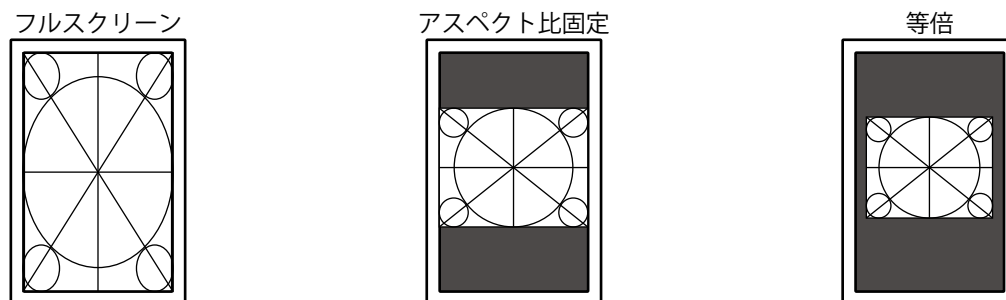
参考

- ・ 主電源を切り、再度電源を入れた場合は、設定内容に関係なく信号が自動で検出されます。

5-3. 表示サイズを切り替える

推奨解像度以外の画像を表示する際のサイズを設定することができます。

例：



設定方法

1. 設定メニューの「信号設定」を選択し、を選択します。
2. 「画面拡大」を選択し、を選択します。
3. 「フルスクリーン」/「アスペクト比固定」/「等倍」のいずれかを選択し、を選択します。

設定	機能
フルスクリーン	画面全体に画像を拡大表示します。ただし、画面と画像の縦、横の比率が異なる場合は、表示画像に歪みが見られる場合があります。
アスペクト比固定	縦、横の比率を維持した状態で画像を拡大表示します。ただし、画面と画像の縦、横の比率が異なる場合は、水平、垂直のどちらかの方向に画像が表示されない部分があります。
等倍	入力された解像度のままのサイズで画像が表示されます。

5-4. DisplayPortのバージョンを設定する

DisplayPortのバージョンを設定することができます。

注意点

- デイジーチェーン接続する場合は、バージョンを「1.2」に設定してください。
- DisplayPortコネクタに接続している場合、コンピュータによってはDisplayPortのバージョンが異なり、画面が表示されないことがあります。その場合は、この設定を変更してみてください。




設定方法

1. を選択して、モニターの電源を切ります。
2. 一番左側のスイッチ () に触れながら に2秒以上触れてモニターの電源を入れます。
3. 「管理者設定」で「信号フォーマット」を選択し、を選択します。
4. 「DisplayPort」を選択し、を選択します。
5. 「バージョン」を選択し、を選択します。
6. 「1.1」または「1.2」を選択し、を選択します。
7. を2回押します。
「管理者設定」メニューが表示されます。
8. 「完了」を選択し、を選択します。


5-5. DVIのリフレッシュレートを設定する

DVIのリフレッシュレート（画面更新の頻度）を設定します。ご使用の環境に合わせて設定してください。

設定方法

1.  を選択して、モニターの電源を切ります。
2. 一番左側のスイッチ（）に触れながら  に2秒以上触れてモニターの電源を入れます。
3. 「管理者設定」で「信号フォーマット」を選択し、 を選択します。
4. 「DVI」を選択し、 を選択します。
5. 「優先リフレッシュレート」を選択し、 を選択します。
6. 「低」または「高」を選択し、 を選択します。




設定	リフレッシュレート
低	25Hz
高	50Hz

7.  を2回押します。
「管理者設定」メニューが表示されます。
8. 「完了」を選択し、 を選択します。

5-6. 画像の表示方向を設定する

モニターの設置方向に合わせて、画像の表示方向を変更することができます。

設定方法

1.  を選択して、モニターの電源を切ります。
2. 一番左側のスイッチ（）に触れながら  に2秒以上触れてモニターの電源を入れます。
3. 「管理者設定」で「画像回転」を選択し、 を選択します。
4. 「縦置き」または「横置き」を選択し、 を選択します。

設定	モニター設置方向
縦置き	縦型設置の場合に選択します。
横置き	横型設置の場合に選択します。

5. 「完了」を選択し、 を選択します。

5-7. 電源スイッチのランプの明るさを調整する

画面表示時の電源スイッチのランプ（緑）の明るさを設定することができます。値が大きいほど電源ランプは明るく点灯し、小さいほど暗くなります。「オフ」では電源スイッチのランプは消灯した状態です。

設定範囲

1～7、オフ

設定方法

1. 設定メニューの「本体設定」を選択し、を選択します。
2. 「ランプ輝度」を選択し、を選択します。
3. またはで設定します。
4. 設定が完了したらを選択します。

5-8. 使用しない表示モードをスキップする

表示モードを選択するときに、特定のモードをスキップすることができます。
表示するモードを限定したい場合や、表示状態をむやみに変更したくない場合にご利用ください。

設定方法

1. 設定メニューの「本体設定」を選択し、を選択します。
2. 「モードスキップ」を選択し、を選択します。
3. 設定を変更するモードを選択し、を選択します。
4. 「スキップ」または「-」を選択し、を選択します。

注意点

- ・すべてのモードを無効（スキップ）にすることはできません。1つ以上のモードを「-」に設定してください。

5-9. パワーセーブ時のDisplayPort通信の有効 / 無効を設定する

コンピュータをDisplayPortコネクタに接続している場合、パワーセーブモードであってもDisplayPortの通信が有効なため、消費電力が高くなります。「DP Power Save」を「オン」にすると、パワーセーブモード時の通信を無効にし、パワーセーブ時の消費電力をセーブすることができます。

注意点

- ・「オン」を選択した場合、電源のオフ/オン時、およびパワーセーブモードからの復帰時に、ウィンドウやアイコンの位置がずれることがあります。その場合は、この機能を「オフ」に設定してください。




設定方法


1. を選択して、モニターの電源を切ります。
2. 一番左側のスイッチ（）に触れながらに2秒以上触れてモニターの電源を入れます。
3. 「管理者設定」で「DP Power Save」を選択し、を選択します。
4. 「オン」または「オフ」を選択し、を選択します。
5. 「完了」を選択し、を選択します。

5-10.操作スイッチをロックする

調整、設定した状態を変更できないようにします。

設定方法

1.  に触れて、モニターの電源を切ります。
2. 一番左側のスイッチ () に触れながら  に2秒以上触れてモニターの電源を入れます。
3. 「管理者設定」で「操作ロック」を選択し、 を選択します。
4. 「オフ」 / 「メニュー」 / 「オール」のいずれかを選択し、 を選択します。

設定	ロックできるスイッチ
オフ	なし (すべてのスイッチが有効)
メニュー	設定メニューによる調整、設定
オール	 を除くすべてのスイッチ

5. 「完了」を選択し、 を選択します。

参考

- RadiCS / RadiCS LEでキャリブレーションを実行した後は、「メニュー」が選択された状態になります。




5-11.DDC通信の入力信号を選択する

DDC通信をどの入力信号で使用するかを設定します。DDC通信を使用することで、USBケーブルを接続せずにRadiCS / RadiCS LEが使用できます。(DDC/CI通信とは異なります。)

注意点

- 通信の精度や速度の面から、RadiCS / RadiCS LEの使用にはUSBによる接続をお勧めします。

設定方法

1.  に触れて、モニターの電源を切ります。
2. 一番左側のスイッチ () に触れながら  に2秒以上触れてモニターの電源を入れます。
3. 「管理者設定」で「DDC」を選択し、 を選択します。
4. 「オフ」 / 「DVI」 / 「DisplayPort」 / 「自動」のいずれかを選択し、 を選択します。
5. 「完了」を選択し、 を選択します。




5-12. 階調表示警告の表示 / 非表示を設定する

推奨解像度でDisplayPort信号を入力した時に、6bit（64階調）の信号が検知されたことを知らせる、階調表示エラーメッセージを表示する、しないを設定することができます。エラーメッセージが表示された場合は、モニターの主電源を入れ直してください。

注意点

- 通常は「オン」でご使用ください（出荷設定は「オン」です）。
- 6bit（64階調）で使用する場合のみ、「オフ」にしてください。

設定方法

1.  を選択して、モニターの電源を切ります。
2. 一番左側のスイッチ（）に触れながら  に2秒以上触れてモニターの電源を入れます。
3. 「管理者設定」で「階調表示警告」を選択し、 を選択します。
4. 「オン」または「オフ」を選択し、 を選択します。
5. 「完了」を選択し、 を選択します。

5-13. 寿命予測データを取得する

モニターの寿命を予測するのに必要なデータを取得することができます。取得したデータに基づく寿命予測は、RadiCS / RadiCS LEで確認することができます。

参考

- データは100時間ごとに収集されます。
- 「パワーセーブ」を選択した場合、100時間経過後、パワーセーブに移行するとき、または電源が切れるときにデータが収集されます。
- 「定期測定」または「パワーセーブ」を選択した場合、データ収集時にIntegrated Front Sensorが稼働して測定をおこないます。「オフ」を選択した場合は、データ収集時にIntegrated Front Sensorを使った測定はおこないません。
- 次のタイミングでデータが保存されます。
 - 500、1000、2000、4000、7000、10000、15000、20000、25000、30000 時間

設定方法

1. 設定メニューの「RadiCS SelfQC」を選択し、 を選択します。
2. 「RadiCS SelfQC」で「LEA」を選択し、 を選択します。
3. 「測定時期」を選択します。
4. 「パワーセーブ」 / 「定期測定」 / 「オフ」のいずれかを選択し、 を選択します。

5-14. 設定メニューの表示を回転する

設定メニューの表示方向を設定することができます。




設定方法

1. 設定メニューの「本体設定」を選択し、 を選択します。
2. 「メニュー回転」を選択し、 を選択します。
3. 「0°」または「90°」を選択し、 を選択します。

5-15. EIZOロゴの表示 / 非表示を設定する

モニター起動時のEIZOロゴの表示、非表示を選択することができます。

設定方法

1.  に触れて、モニターの電源を切ります。
2. 一番左側のスイッチ () に触れながら  に2秒以上触れてモニターの電源を入れます。
3. 「管理者設定」で「起動ロゴ」を選択し、 を選択します。
4. 「オン」または「オフ」を選択し、 を選択します。
5. 「完了」を選択し、 を選択します。

5-16. モニター情報を表示する

現在表示している入力信号とこの製品に関する情報を表示します。

設定方法

1. 設定メニューの「インフォメーション」を選択し、 を選択します。
入力信号情報、製品名、製造番号、ファームウェアバージョン、使用時間などが表示されます。
資産管理番号は、RadiCS / RadiCS LEで設定した場合にのみ表示されます。

例：

インフォメーション	
RadiForce RX560	S/N: 12345678
バージョン	*****-*****-*****
使用時間 (h)	製品: 1234567890 バックライト:1234567890
資産管理番号	*****
入力信号	DisplayPort 1600 X 1200 fH: 75.00 kHz fV: 60.00 Hz fD: 162.0 MHz

注意点

- 工場での検査などのため、購入時に使用時間が「0」ではない場合があります。

5-17. 初期設定に戻す

リセットには、カラー調整のみを初期設定に戻す機能と、すべての設定内容を初期設定に戻す機能があります。

注意点

- リセット実行後は、リセット前の状態に戻すことはできません。

参考

- 初期値については、「7-3. 主な初期設定値」(P.33)を参照してください。

● カラー調整値をリセットする

現在選択しているモードのカラー調整値のみを初期設定に戻します。

設定方法

- 設定メニューの「CAL Switch Mode」を選択し、を選択します。
- 「リセット」を選択し、を選択します。
- 「OK」を選択し、を選択します。
カラー調整値が初期設定になります。

● すべての設定内容をリセットする





すべての設定内容を初期設定に戻します（「入力」、「管理者設定」メニューは除く）。

設定方法

- 設定メニューの「本体設定」を選択し、を選択します。
- 「本体設定」で「オールリセット」を選択し、を選択します。
- 「OK」を選択し、を選択します。
「入力」および「管理者設定」メニューを除くすべての設定内容が初期設定になります。

第6章 こんなときは

6-1. 画面が表示されない場合

症状	原因と対処方法
1. 画面が表示されない <ul style="list-style-type: none"> 電源スイッチのランプが点灯しない 	<ul style="list-style-type: none"> 電源コードは正しく接続されていますか。 主電源を入れてください。 ⏻に触れてください。 主電源を切り、再度電源を入れてみてください。
<ul style="list-style-type: none"> 電源スイッチのランプが点灯：緑色 	<ul style="list-style-type: none"> 設定メニューの「ブライトネス」、「コントラスト」、「ゲイン」の各調整値を上げてみてください（「2-4. 明るさ / カラーを調整する」(P.10) 参照）。 主電源を切り、再度電源を入れてみてください。
<ul style="list-style-type: none"> 電源スイッチのランプが点灯：橙色 	<ul style="list-style-type: none"> 入力信号を切り替えてみてください（「2-2. 入力信号を設定する」(P.8) 参照）。 マウス、キーボードを操作してみてください。 コンピュータの電源は入っていますか。 人感センサーを「オン」に設定している場合、パワーセーブモードに移行している可能性があります。モニターに近づいてみてください。 DisplayPort信号が正しく接続されていますか。DisplayPortの信号を入力する場合は、に接続してください。は、デイジーチェーン接続時の出力に使用します。 主電源を切り、再度電源を入れてみてください。
<ul style="list-style-type: none"> 電源スイッチのランプが点滅：橙色、緑色 	<ul style="list-style-type: none"> 当社指定の信号ケーブルで接続してください。その後、主電源を切り、再度電源を入れてみてください。
2. 次のようなメッセージが表示される	<p>この表示はモニターが正常に機能していても、信号が正しく入力されないときに表示されます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 信号が入力されていない場合の表示です。 例： <div data-bbox="255 1232 654 1332" style="border: 1px solid black; background-color: #333; color: white; padding: 10px; text-align: center; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>入力信号無し</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> コンピュータによっては電源を入れても信号がすぐに出されないため、左のような画面が表示されることがあります。 コンピュータの電源は入っていますか。 信号ケーブルは正しく接続されていますか。 入力信号を切り替えてみてください（「2-2. 入力信号を設定する」(P.8) 参照）。 DisplayPortの信号を入力している場合は、DisplayPortのバージョンを切り替えてみてください（「5-4. DisplayPortのバージョンを設定する」(P.20) 参照）。 DisplayPortの信号を入力する場合は、に接続してください。は、デイジーチェーン接続時の出力に使用します。 主電源を切り、再度電源を入れてみてください。
<ul style="list-style-type: none"> 入力されている信号が周波数仕様範囲外であることを示す表示です。（範囲外の周波数はマゼンタで表示されます。） 例： <div data-bbox="255 1691 654 1836" style="border: 1px solid black; background-color: #333; color: white; padding: 10px; text-align: center; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>DisplayPort 信号エラー</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> コンピュータの設定が、この製品で表示できる解像度、垂直走査周波数になっていますか（取扱説明書「対応解像度」参照）。 コンピュータを再起動してみてください。 グラフィックスボードのユーティリティなどで、適切な設定に変更してください。詳細はグラフィックスボードの取扱説明書を参照してください。

6-2. 画面に関する症状

症状	原因と対処方法
1. 画面が明るすぎる / 暗すぎる	<ul style="list-style-type: none">設定メニューの「ブライトネス」、「コントラスト」を調整してください。（液晶モニターのバックライトには、寿命があります。画面が暗くなったり、ちらついたりするようになったら、EIZOメンテナンスセンターにご相談ください。）
2. 文字がぼやけて見える	<ul style="list-style-type: none">コンピュータの設定が、この製品で表示できる解像度、垂直走査周波数になっていますか（取扱説明書「対応解像度」参照）。
3. 残像が現れる	<ul style="list-style-type: none">この現象は液晶パネルの特性であり、固定画面で長時間使用することをできるだけ避けることをお勧めします。長時間同じ画像を表示する場合は、コンピュータのスクリーンセーバーまたはパワーセーブ機能を使用してください。表示する画像によっては、短い時間でも残像が見えることがあります。その場合、画像を変更したり、数時間電源を切った状態にすると、解消されることがあります。
4. 画面に緑、赤、青、白のドットが残るまたは点灯しないドットが残る	<ul style="list-style-type: none">これらのドットが残るのは液晶パネルの特性であり、故障ではありません。
5. 画面上に干渉縞が見られる / パネルを選択した跡が消えない	<ul style="list-style-type: none">画面全体に白い画像または黒い画像を表示してみてください。症状が解消されることがあります。

6-3. その他の症状

症状	原因と対処方法
1. 設定メニューが表示できない	<ul style="list-style-type: none"> 操作スイッチのロックが機能していないか確認してみてください（「5-10. 操作スイッチをロックする」(P.23)参照）。
2. モードメニューが表示できない	<ul style="list-style-type: none"> 操作スイッチのロックが機能していないか確認してみてください（「5-10. 操作スイッチをロックする」(P.23)参照）。
3. 操作スイッチが効かない	<ul style="list-style-type: none"> 操作スイッチのロックが機能していないか確認してみてください（「5-10. 操作スイッチをロックする」(P.23)参照）。 スイッチ表面に水滴や異物が付着していませんか。表面を軽くふき、乾いた手で再度スイッチに触れてみてください。 手袋を装着していませんか。手袋を外した、乾いた手で再度スイッチに触れてみてください。
4. (人感センサー使用時) 離席しても画面が消えない / モニターに近づいても画面が表示されない	<ul style="list-style-type: none"> モニターの設置環境を確認してください。次の環境では正しく動作しないことがあります。 <ul style="list-style-type: none"> - 風が当たる場所にモニターを設置していませんか。 - モニターの周辺に熱を出す機器がありませんか。 - センサーの前に障害物がありませんか。 センサーに汚れが付いていませんか。汚れがある場合は、柔らかい布で取り除いてください。 モニターの正面に座っていますか。人感センサーは、モニター正面のセンサーが熱の移動を検知することで機能します。 気温が高い場合、パワーセーブモードから復帰しないことがあります。マウス、キーボードを操作しても画面が表示されない場合は、モニターの電源スイッチで電源を切って、再度電源を入れてください。画面が表示されたら、検知感度を大きい値に変更してください（「4-2. 離席時のパワーセーブの設定をする」(P.18)参照）。
5. USBケーブルで接続したモニターが認識されない / モニターに接続しているUSBデバイス(周辺機器)が動作しない	<ul style="list-style-type: none"> USBケーブルは正しく接続されていますか（「7-2. USB/ハブ機能の使用方法」(P.32)参照）。 コンピュータの別のUSBポートに差し替えてみてください。 USBデバイスをモニターの別のUSBポートに差し替えてみてください。 コンピュータを再起動してみてください。 直接コンピュータと周辺機器を接続してみて、周辺機器が正しく動作した場合は、お買い求めの販売店またはEIZOサポートにご相談ください。 ご使用のコンピュータおよびOSがUSBに対応しているかご確認ください（各機器のUSB対応については各メーカーにお問い合わせください）。 Windowsをご使用の場合、コンピュータに搭載されているBIOSのUSBに関する設定をご確認ください（詳細はコンピュータの取扱説明書を参照してください）。

症状	原因と対処方法
6. 使用中に電源が切れ、画面が表示されない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ モニターは内部温度が極度に高温になると、自動的に電源が切れます。高温状態のままでは、再度電源スイッチを入れても1分後にまた電源が切れます。 ・ 設置場所や環境を変え、数分後に再度電源を入れてみてください。 <ul style="list-style-type: none"> - 通風孔がふさがっていませんか。 - 周囲に高温のものが置かれていませんか。 ・ 設置場所や環境を変えても電源が入らない場合は、EIZOメンテナンスセンターに連絡してください。 <p>注意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ モニターの通風孔をふさいだり、風通しの悪い場所で使用しないでください。
7. Integrated Front Sensorが出たままになっている	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主電源を切り、再度電源を入れてみてください。
8. RadiCSの起動に時間がかかる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 付属のUSBケーブルを接続してください。
9. SelfCalibration / 階調チェックに失敗する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 下記のエラーコード表を参照してください。 <p>注意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Integrated Front Sensorに触らないでください。
10. SelfCalibration / 階調チェックの履歴に時刻が正しく表示されない	<ul style="list-style-type: none"> ・ RadiCS / RadiCS LEを使用して「モニター検出」を実行してください。詳細は、RadiCS / RadiCS LE取扱説明書を参照してください。

● エラーコード表

エラーコード	詳細
0***	<ul style="list-style-type: none"> ・ SelfCalibration時に発生したエラー
1***	<ul style="list-style-type: none"> ・ 階調チェック時に発生したエラー
*1**	<ul style="list-style-type: none"> ・ DICOMで発生したエラー
*2**	<ul style="list-style-type: none"> ・ CAL1で発生したエラー
*3**	<ul style="list-style-type: none"> ・ CAL2で発生したエラー
**10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 製品の最大輝度が目標輝度よりも低くなっている可能性があります。 ・ 目標輝度を下げてください。
**11	<ul style="list-style-type: none"> ・ 製品の最小輝度が目標最小輝度よりも高くなっている可能性があります。 ・ 目標最小輝度を上げてみてください
**34	<ul style="list-style-type: none"> ・ センサーが正しく動作しなかった可能性があります。 ・ 主電源を切り、数分後に再度電源を入れてからSelfCalibration / 階調チェックをやり直してみてください。
**61	<ul style="list-style-type: none"> ・ センサーが正しく動作しなかった可能性があります。 ・ センサーの周囲に異物がないか確認してみてください。 ・ SelfCalibration / 階調チェックをやり直してみてください
**95	<ul style="list-style-type: none"> ・ SelfCalibration / 階調チェックの実行条件が正しくない可能性があります。 ・ 実行条件を確認し、設定し直してください。

第7章 ご参考に

7-1. アーム取り付け方法

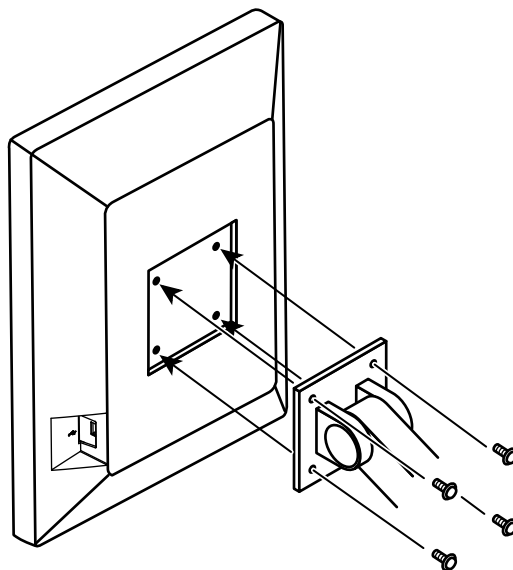
この製品はスタンド部分を取り外すことによって、オプションアーム（またはオプションスタンド）に取り付けることが可能になります。対応しているオプションアーム（またはオプションスタンド）については、当社のWebサイトを参照してください。 <http://www.eizo.co.jp>

注意点

- ・ 取り付けの際は、アームまたはスタンドの取扱説明書の指示に従ってください。
- ・ 他社製のアームまたはスタンドを使用する場合は、次の点をアームまたはスタンドメーカーにご確認の上、VESA規格準拠のものを選択してください。
 - 取付部のネジ穴間隔：100 mm×100 mm
 - アームまたはスタンドのVESAマウント部外形寸法：122 mm×122 mm以下
 - 許容質量：モニター本体の質量（スタンドなし）とケーブルなどの装着物の総質量に耐えられること
- ・ 他社製のアームまたはスタンドを使用する場合、取り付けには次のねじをご使用ください。
 - 本体部分とスタンドを固定しているねじ
- ・ アームまたはスタンドを使用する場合は、次の範囲（チルト角）で使用してください。
 - 上45°下45°（縦型設置時、および反時計回り90°に横型設置時）
- ・ ケーブル類は、アームまたはスタンドを取り付けた後に接続してください。
- ・ 取り外したスタンドを昇降させないでください。モニター本体を取り付けていない状態でスタンドを昇降させると、けがや故障の原因となります。
- ・ モニターおよびアームまたはスタンドを落としたりすると、けがや故障の原因となります。
- ・ 定期的になねじの締め付けを確認してください。締め付けが不十分な場合、モニターが外れ、けがや故障の原因となります。

取付方法

1. パネル面が傷つかないように、安定した場所に柔らかい布などを敷いた上に、パネル面を下に向けて置きます。
2. スタンド部分を取り外します。
別途ドライバを準備してください。ドライバを使って、本体部分とスタンドを固定しているねじ4箇所を取り外します。
3. モニターにアーム（またはスタンド）を取り付けます。
手順2で取り外したねじを使用して、アーム（またはスタンド）を取り付けます。

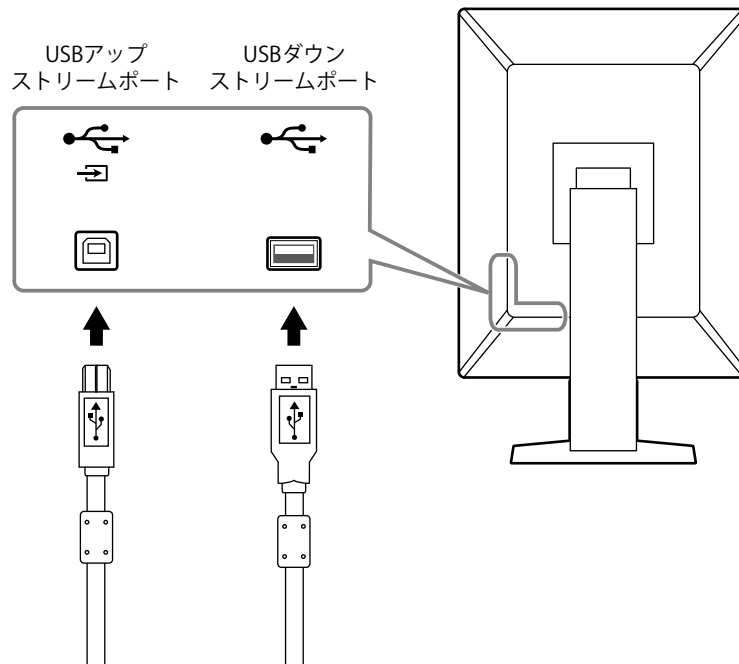


7-2. USBハブ機能の使用方法

この製品はUSBハブを搭載しています。USB対応のコンピュータまたはUSBハブを搭載した他のモニターに接続することにより、この製品がUSBハブとして機能し、USBに対応している周辺機器と接続できます。

接続方法

1. コンピュータ（あるいはUSBハブ搭載モニター）のUSBダウンストリームポートとモニターのUSBアップストリームポートをUSBケーブルで接続します。
2. USB対応の周辺機器をモニターのUSBダウンストリームポートに接続します。



注意点

- 主電源スイッチオフ時、USBポートに接続されている機器は動作しません。

7-3. 主な初期設定値

CAL Switch Mode：工場出荷時の表示設定は「1-DICOM」です。

モード	輝度	色温度	ガンマ値	Hybrid Gamma PXL
1-DICOM	500 cd/m ²	8000 K	DICOM GSDF	オフ
2-CAL1	400 cd/m ²	8000 K	2.2	オフ
3-CAL2	400 cd/m ²	8000 K	DICOM GSDF	オフ
4-Custom	約300 cd/m ²	7500 K	2.2	- (無効)
5-sRGB	約250 cd/m ²	sRGB	sRGB	- (無効)
6-Text	約100 cd/m ²	6500 K	2.2	- (無効)

その他

LEA	Power Save	
警告表示	オフ	
QC履歴表示	オン	
画面拡大	等倍	
入力	DisplayPort ^{※1}	
入力自動検出	オフ	
パワーセーブ	高	
ランプ輝度	4	
人感センサー	オフ	
	検知時間	10min
	検知感度	レベル4
モードスキップ	- (すべて表示)	
言語	日本語	
起動ロゴ	オフ ^{※1}	
操作ロック	オフ ^{※1}	
画像回転	縦置き ^{※1}	
DDC	自動 ^{※1}	
DP Power Save	オフ ^{※1}	
階調表示警告	オン ^{※1}	
Sharpness Recovery	オン ^{※1}	
信号フォーマット	DisplayPort - バージョン	1.1 ^{※1}
	DVI - 優先リフレッシュレート	Low ^{※1}

※1 「オールリセット」 (「すべての設定内容をリセットする」 (P.26) 参照) を実行しても初期設定値には戻りません。

付録

商標

HDMI、HDMI High-Definition Multimedia InterfaceおよびHDMIロゴは、HDMI Licensing, LLCの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

DisplayPortコンプライアンスロゴ、VESAはVideo Electronics Standards Associationの登録商標です。

SuperSpeed USB Trident LogoはUSB Implementers Forum, Inc.の登録商標です。



Kensington、MicrosaverはACCO Brands Corporationの登録商標です。

ThunderboltはIntel Corporationの米国および/またはその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、Windows Vistaは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

AdobeはAdobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国およびその他の国における登録商標です。

Apple、macOS、Mac OS、OS X、Macintosh、ColorSyncはApple Inc.の登録商標です。

EIZO、EIZOロゴ、ColorEdge、DuraVision、FlexScan、FORIS、RadiCS、RadiForce、RadiNET、Raptor、ScreenManagerはEIZO株式会社の日本およびその他の国における登録商標です。

ColorEdge Tablet Controller、ColorNavigator、CuratOR、EcoView NET、EIZO EasyPIX、EIZO Monitor Configurator、EIZO ScreenSlicer、G-Ignition、i-Sound、Quick Color Match、RadiLight、Re/Vue、Screen Administrator、Screen InStyle、UniColor ProはEIZO株式会社の商標です。

その他の各会社名、各製品名は、各社の登録商標または商標です。

ライセンス

この製品上で表示される文字には、リコーインダストリアルソリューションズ株式会社が制作したビットマップフォントを使用しています。

